



Data Protector

ソフトウェアバージョン: 10.00

スタートアップガイド

ドキュメントリリース日: 2017年6月
ソフトウェアリリース日: 2017年6月

ご注意

保証

Micro Focus or one of its affiliates製品に関する保証は、製品およびサービスに付属する保証規定に明示されている内容に限定されます。本書のいかなる記述も、追加の保証を構成するものではありません。Micro Focusは、本書の技術的内容や編集に関する誤りや欠落に関して責任を負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密コンピューターソフトウェア。保持、使用、またはコピーには、Micro Focusからの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211および12.212に従って、商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメント、および商用品目の技術データは、米国政府に対して、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいてライセンスされます。

著作権について

© Copyright 2017 Micro Focus or one of its affiliates

商標について

Adobe™はAdobe Systems Incorporatedの商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

この製品には、'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインターフェースが含まれています。Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新のソフトウェア更新をチェックするには、次のサイトを参照してください。

<https://softwaresupport.softwaregrp.com/group/softwaresupport/search-result?doctype=patches?keyword=>

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<https://softwaresupport.softwaregrp.com/group/softwaresupport/search-result?doctype=manuals?keyword=>

このサイトを利用するには、Passportへの登録とサインインが必要です。Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<https://cf.passport.softwaregrp.com/hppcf/login.do>.

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、の営業担当にお問い合わせください。

サポート

ソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<https://softwaresupport.softwaregrp.com/>

このサイトでは、のお客様窓口のほか、ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

ソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- 製品ドキュメントへのアクセス

- サポート契約の管理
- カスタマーサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<https://cf.passport.softwaregrp.com/hppcf/login.do>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。<https://softwaresupport.softwaregrp.com/>

目次

第1章：インストール	5
Windowsシステムへのインストール	5
前提条件	5
Cell Managerのインストール	6
インストールの準備	6
Data Protector のインストール	7
Data Protectorの実行	7
クライアントのインストール	7
前提条件	7
Cell Manager GUIからのリモートでのインストール	8
対象のシステム上でのローカルなインストール	8
UNIXシステムへのインストール	8
Cell Managerのインストール	8
前提条件(HP-UXおよびLinux)	9
手順	9
Data Protectorの実行	9
クライアントのインストール	9
前提条件	9
リモートインストール	10
ローカルインストール	10
次に行う手順	10
バックアップデバイスの構成	11
ファイルライブラリデバイスの構成	11
スタンドアロンドライブの構成	12
自動構成	12
手動構成	12
メディアのフォーマット	13
第2章：システムのバックアップ	14
第3章：バックアップからの復元	15
第4章：詳細情報	16
ドキュメントマップ	16
略称	16
統合	19
フィードバックを送信	21

第1章: インストール

注:

本ガイドは、完全なData Protector製品に適用されます。シングルサーバー版をお持ちの場合、ここに記載の一部のプラットフォームと機能は適用されません。

このガイドは、Data Protectorをすぐにお使いいただけるように作成されています。デフォルトの設定を使用すると、迅速かつ簡単にソフトウェアのインストール、バックアップの作成、および復元を行うことができます。

Windowsシステムへのインストール

注: インストールに関する完全な解説については、Windowsインストールパッケージの最上位レベルのDocsディレクトリに収められている『Data Protectorインストールガイド』を参照してください。

前提条件

- 管理サーバー(Cell Manager):
 - 4 GBのRAM
内部データベースの復旧の場合、合計RAMの2倍が必要です。
 - 1.5 GBの空きディスクスペース + バックアップされるファイル(IDB用)ごとに約 100バイト
選択したディスクボリューム上に十分なストレージスペースがない場合には、そのディスク上のディレクトリに他のボリュームをマウントすることもできます。ただし、これはインストール前に行っておく必要があります。
- バックアップクライアント(Disk Agent):
 - 64 MBのRAM(推奨 128 MB)
 - 20 MBのディスクスペース
- デバイスサーバー(Media Agent):
 - 64 MBのRAM(推奨 128 MB)
 - 20 MBのディスクスペース
- ユーザーインターフェイス:
 - 512 MBのRAM
 - 150 MBのディスクスペース
- ガイドおよびヘルプ
 - PDF形式のガイドおよびヘルプシステム用の100 MB

これらの数値はコンポーネントのみに関する要件です。オペレーティングシステム、ページングファイル、またはその他のアプリケーションに割り当てられるディスクスペースのサイズは含まれていません。

Cell Managerのインストール

サポートされているプラットフォームの詳細については、最新のサポート一覧 (<https://softwaresupport.softwaregrp.com/>)を参照してください。

インストールの準備

1. Data Protector Cell Managerとなるシステム上で以下の操作を行います。
 - a. スタンドアロンテープドライブをお使いの場合、テープドライブをData Protector Cell Managerに接続して、電源を入れます。
 - b. TCP/IPプロトコルとホスト名解決を使用可能にします。

使用可能かどうかを確認するには、以下の手順に従ってください。

 - i. コンピューター名を検索し、名前解決が正しく機能していることを確認します。
 - コマンドプロンプト (Windowsプラットフォームの場合) またはターミナル (UNIXシステムの場合) を起動します。
 - 以下を実行します。hostname
使用しているコンピューターの名前が表示されます。
 - ii. 名前解決と到達性を確認します。
 - 以下を実行します。nslookup Hostname
 - DNSの逆引きを行うため、次のコマンドを入力します: nslookup IPAddress
両方のコマンドから同じホスト名とIPアドレスが返された場合、ネットワークは正しく設定されています。
ネットワークに問題がある場合は、『Data Protectorトラブルシューティングガイド』を参照してください。
 - c. 固定IPアドレスを割り当てます。
 - d. Windowsテープデバイスとチェンジャードライバーを非アクティブ化します(推奨)。これらのドライバーは、このテープデバイスに他のアプリケーションがアクセスしている場合など、例外的なケース以外は使用しないでください。
2. システムにAdministratorユーザー (Windowsシステムの場合) またはrootユーザー (UNIXシステムの場合) としてログオンします。
3. Data Protectorで使用するオペレーティングシステムアカウント (dpadminなど) を個別に設定します。
Windowsシステムの場合、必ず以下の条件を満たすようにします。
 - 設定したユーザーがAdministratorsおよびBackup Operatorsユーザーグループのメンバーであること
 - そのユーザーに「サービスとしてログオン」権利が付与されていること

このユーザーアカウントは、必要なサービスを提供するためにのみ必要となります。個々のシステムへのログオンには使用されません。

このアカウントは、サーバーおよびクライアントのインストール時のData Protectorサービスアカウントとして使用します。Windowsドメインでは、このユーザーアカウントをプライマリドメインコントローラーに設定するだけで十分です。

Data Protector のインストール

- Windowsインストールパッケージ(zip)を挿入して、ウィザードを起動します。
 - 64ビットのAMD64/Intel EM64Tシステムの場合: \x8664\setup.exe
- [Cell Manager]を選択し、デフォルト値を使用してウィザードの指示に従います。
- [アカウント情報]ウィンドウで、インストールの準備手順の手順3で作成したユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。

Data Protectorの実行

[スタート] > [プログラム] > [Data Protector] > [Data Protector Manager]

詳しくは、パッケージ(zip)の最上位のDocsディレクトリに収められているマニュアルを参照してください。

クライアントのインストール

<https://softwaresupport.softwaregrp.com/>を参照して「Data Protector」を検索してください。サポートされているプラットフォームについて確認するため、必要なバージョンを選択します。

前提条件

- Cell Managerがインストールされていること
- 管理者の権限および管理者パスワード
- TCP/IPプロトコルとノード名解決を使用可能にする

RAMおよびディスクスペース—最小値および推奨値

クライアントシステムコンポーネント	RAM (MB)	ディスクスペース(MB)
ユーザーインターフェイス	512 ¹	150 ²
Disk Agent	各 64(推奨 128)	各 20
Media Agent		
統合コンポーネント		
英語版ドキュメント(ガイド、ヘルプ)	—	100

¹同時に表示する必要がある要素の数によって異なります。

²ページファイルだけは物理メモリの約3倍のサイズまで増加できるようにする必要があります。

Cell Manager GUIからのリモートでのインストール

1. システムに管理者としてログオンします。
2. [スタート] > [プログラム] > [Data Protector] > [Data Protector Manager]の順にクリックします。
3. [Data Protector Manager]で[クライアント]コンテキストを選択します。
4. Scopingペインで、[クライアント]を右クリックし、[クライアントの追加]を選択してウィザードを起動します。
5. ウィザードの指示に従います。

対象のシステム上でのローカルなインストール

1. システムに管理者としてログオンします。
2. 次のコマンドを実行して、Cell Managerシステムとクライアントシステム間のネットワーク接続を確認します。
`ping CellManagerHostname`
3. 以下を実行します。
 - 32ビットシステムの場合: `\i386\setup.exe`
 - 64ビットのAMD64/Intel EM64Tシステムの場合: `\x8664\setup.exe`
4. [クライアント]を選択します。
5. ウィザードの指示に従います。
6. [Cell Managerシステム]ダイアログボックスに、Cell Managerの名前を入力します。

UNIXシステムへのインストール

注: インストールに関する完全な解説については、UNIXインストールパッケージ(tar)のDOCS/Cディレクトリに収められている『Data Protectorインストールガイド』を参照してください。

Cell Managerのインストール

注:
サポートされているプラットフォームについては、最新のサポート一覧
(<https://softwaresupport.softwaregrp.com/>)を参照してください。

バックアップデバイスがローカルに接続されたCell Managerを、デフォルト構成でインストールする例を以下に示します。

前提条件(HP-UXおよびLinux)

HP-UX	Linux
8 GBの合計RAM	4 GBの合計RAM
注: 内部データベースの復旧の場合、合計RAMの2倍が必要です。	
1.5 GBの空きディスクスペース + IDBが保存される/varディレクトリ内にバックアップファイル(IDB用)ごとに約100バイト ディスクボリューム上にストレージスペースが足りない場合はリンクディレクトリを使用することも可能ですが、その場合はインストール前にリンクを作成しておき、インストール先ディレクトリが存在することを確認しておかなければなりません。	

手順

Data Protector Cell Managerで以下を実行します。

- UNIXインストールパッケージ(tar)をマウントポイントにマウントします。以下に例を示します。

```
mkdir /cdrom
mount /dev/dsk/c0t0d0/ cdrom
```
- omnisetup.shを実行します。パッケージ(tar)からコマンドを実行するには、次のように入力します。

```
cd /cdrom/LOCAL_INSTALL
./omnisetup.sh -CM
```
- 表示されるプロンプトに従います。

クライアントをCell Managerからリモートでインストールするか、またはローカルでインストールします。

Data Protectorの実行

Cell Managerサービスは、インストール中に自動的に開始されます。

Data Protector GUIを使用するには、GUIクライアントをWindowsシステムにインストールします。

クライアントのインストール

<https://softwaresupport.softwaregrp.com/>を参照して「Data Protector」を検索してください。サポートされているプラットフォームについて確認するため、必要なバージョンを選択します。

前提条件

- 各ターゲットシステムのルート権限
- RAMおよびディスクスペース—最小値および推奨値

クライアントシステムコンポーネント	RAM (MB)	ディスクスペース(MB)
Disk Agent	64(推奨 128)	10
Media Agent	64(推奨 128)	20
統合コンポーネント	64(推奨 128)	20
英語版ドキュメント(ガイド、ヘルプ)	—	95

リモートインストール

Data Protectorユーザーインターフェイスを使って、ソフトウェアコンポーネントをクライアントに配布します。プラットフォームが異なるクライアントへのインストールも可能です。

1. GUIクライアントでData Protector Managerを起動します。
2. [Data Protector Manager]で[クライアント]コンテキストを選択します。
3. Scopingペインで、[クライアント]を右クリックし、[クライアントの追加]を選択してウィザードを起動します。
4. ウィザードの指示に従います。ウィザードの各ページの詳細については、『Data Protectorヘルプ』を参照してください。

Media Agentのインストール後、構成ファイル(/kernel/drv/st.conf)をチェックします。詳しくは、『Data Protectorインストールガイド』の「Data Protectorのインストール」を参照してください。

最後に、バックアップデバイスをシステムに接続します。

ローカルインストール

1. UNIXインストールパッケージ(tar)を挿入します。
2. インストールパッケージ(tar)をマウントポイントにマウントします。
3. `Mount_Point/LOCAL_INSTALL`に移動して、以下のコマンドを実行します。

```
omnisetup.sh [-source directory][-server name][-install component list]
```

Data Protectorコンポーネントコードの一覧については、『Data Protectorインストールガイド』を参照してください。
4. インストールが完了している場合や、クライアントがData Protectorセルにインポートされている場合は、omnisetupによるメッセージが表示されます。COREおよびCORE-INTEGコンポーネントは自動的にインストールされます。

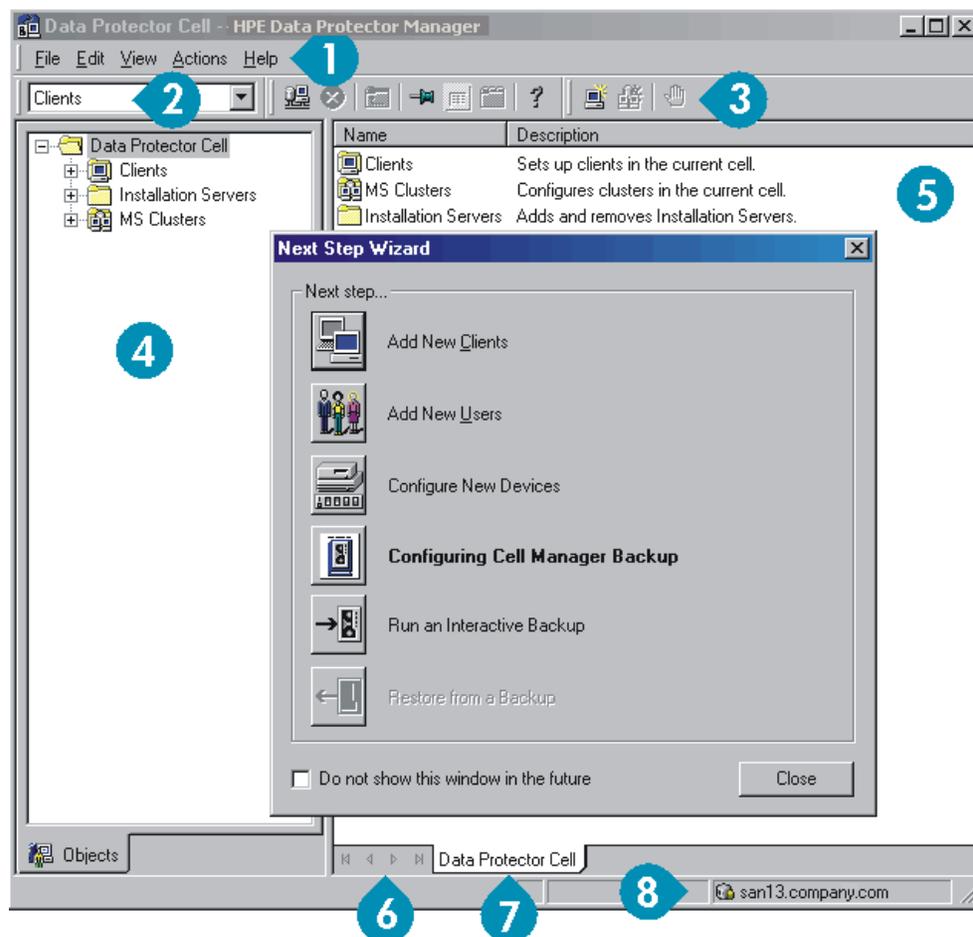
Cell Manager名を指定していると、クライアントがセルにインポートされます。指定しなかった場合は、Data Protector GUIを使ってクライアントをインポートしてください。

次に行う手順

これでData Protector Managerの実行準備ができました。

Data Protector Managerを起動します。Data Protector Managerが開いて、[クライアント]コンテキストと[次のステップ]ウィザードが表示されます。

「次のステップ」ウィザード



- | | | | | | | | |
|---|--------|---|-----------|---|-------|---|------------|
| 1 | メニューバー | 2 | コンテキストリスト | 3 | ツールバー | 4 | Scopingペイン |
| 5 | 結果エリア | 6 | ナビゲーションタブ | 7 | 結果タブ | 8 | ステータスバー |

バックアップデバイスの構成

ファイルライブラリデバイスの構成

ここでは、主にデフォルトオプションを使用して、基本的なファイルライブラリデバイスをローカルドライブまたは共有ドライブに構成する方法について説明します。その他の使用可能なオプションについては、『Data Protectorヘルプ』のキーワード「バックアップデバイスの構成」で表示される内容を参照してください。

開始前: Windows上で圧縮オプションを無効にします。

1. ローカルディスクまたは共有 ディスク上にディレクトリを作成します。
例: C:\FileLibrary
2. Data Protector Managerを起動します。
3. コンテキストリストから**[デバイスメディア]**を選択します。
4. **[デバイス]**を右クリックして、**[デバイスの追加]**を選択します。デバイスを定義する画面が表示されます。
5. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名	例: Example: File Library Device 01
説明	適宜
クライアント	このデバイスの接続先クライアントを選択します。
デバイスの種類	[ファイルライブラリ] を選択します。

[次へ]をクリックします。

6. 手順1で作成したファイルライブラリデバイスのディレクトリを指定し、**[追加]**をクリックします。
7. **[次へ]**をクリックします。結果エリアで、メディアの種類として**[ファイル]**を選択します。
8. **[完了]**をクリックします。

スタンドアロンドライブの構成

自動構成

1. コンテキストリストから**[デバイスメディア]**を選択します。
2. **[デバイス]**を右クリックします。
3. **[デバイスの自動構成]**を選択します。
4. リストからシステムを選択して、**[完了]**をクリックします。

デバイスが自動的に構成されます。

手動構成

上記のファイルライブラリデバイスの手順4までを実行します。次に、

1. デバイスの詳細を入力します。

デバイス名	例: Example: LTO-3 Tape Drive
説明	適宜
クライアント	このデバイスの接続先クライアントを選択します。
デバイスの種類	[スタンドアロン]を選択します。

[次へ]をクリックします。

2. SCSIアドレスをドロップダウンリストから選択します。[追加]をクリックします。
3. [次へ]をクリックします。結果エリアで、適切なメディアの種類([LTO]など)を選択します。
4. [完了]をクリックします。

メディアのフォーマット

Data Protectorは、テープが認識できるように個々のテープに独自のヘッダーを書き込みます。この項で説明するとおり、フォーマット操作は手動で行えます。また、自動で行うこともできます。Data Protectorでテープを使用するには、前もってテープをフォーマットしておく必要があります。テープをData Protectorで自動的にフォーマットする場合は、この項の手順を省略してください。

注意:

フォーマットにより、メディア上のデータはすべて削除されます。

1. [デバイス/メディア]コンテキストで、[プール]を展開します。
2. 適切なメディアプールを右クリックします。
3. [フォーマット]を選択します。
4. 結果エリアでドライブを選択して、[次へ]をクリックします。
5. デフォルトの設定値をそのまま使用して、[次へ]をクリックします。
6. [強制操作]をクリックし、[メディアのサイズ]セクションで[デフォルト]を選択した後、[完了]をクリックします。Data Protectorにより、メディアがフォーマットされます。

第2章: システムのバックアップ

バックアップ仕様の作成手順と基本的なバックアップの実行手順を以下に示します。

1. コンテキストリストで[**バックアップ**]をクリックします。
2. Scopingペインで[**バックアップ**]を展開した後、[**バックアップ仕様**]をクリックします。
3. 結果エリアで[**ファイルシステム**]を右クリックして、[**バックアップの追加**]を選択します。
4. [**空のファイルシステム/バックアップ**]テンプレートを選択して[**OK**]をクリックします。
5. 結果エリアに表示される、バックアップ対象指定の画面でディレクトリ/ファイルをブラウズして、バックアップ対象のディレクトリ/ファイルの横にあるチェックボックスを選択し、[**次へ**]をクリックします。テープデバイスが接続されていない場合は、サイズの小さいディレクトリを数個選択してください。
6. デフォルトのバックアップ仕様オプションを使用するか、希望のバックアップオプションを選択して、[**次へ**]をクリックします。
7. 結果エリアにバックアップ仕様のサマリーが表示されます。[**次へ**]をクリックします。
8. バックアップ仕様を保存して後で使用する場合は、[**別名で保存**]をクリックします。また、[**保存とスケジュール**]オプションをクリックしてバックアップ仕様を保存してから、スケジューラーを使用してスケジュールを設定することもできます。
9. バックアップを実行するには、[**バックアップ開始**]をクリックします。
10. [バックアップ開始]ウィンドウが表示され、[**OK**]をクリックすると、デフォルトのバックアップ仕様でのバックアップが開始されます。
11. [バックアップ]ウィンドウに、バックアップセッションの進行状況が表示されます。バックアップが完了した時点で、その旨を知らせるメッセージが[セッション情報]ウィンドウに表示されます。

第3章: バックアップからの復元

デフォルトでは、バックアップオブジェクトはバックアップ実行時のパスへ復元されます。以下に基本的な復元の実行手順を示します。

1. コンテキストリストで**[復元]**をクリックします。
2. **[ファイルシステム]**をブラウズして、復元対象のクライアントオブジェクトを選択します。結果エリアに**[復元]**ビューが表示されます。
3. ディレクトリ/ファイルをブラウズして、復元対象のディレクトリ/ファイルの横にあるチェックボックスを選択します。
4. **[あて先]**タブを選択して、復元先を選択します。何も選択しない場合、ディレクトリ/ファイルはバックアップ実行時と同じパスに復元されます。
5. **[復元の開始]**ボタンをクリックします。**[復元セッションの開始]**ウィザードが表示されます。
6. ウィザードに表示されるデフォルト設定を使って操作を進めます(**[次へ]**と**[完了]**をクリックします)。
7. **[復元セッションの開始]**ウィンドウが表示されて、選択したオブジェクトのシステムへの復元状況が表示されます。

第4章: 詳細情報

注:

このドキュメントセットはサポートWebサイト(<https://softwaresupport.softwaregrp.com/>)で利用できます。このドキュメントセットには最新の更新情報および修正情報が記載されています。

Data Protectorドキュメントセットには、次の場所からアクセスできます。

- Data Protectorインストールディレクトリ
Windowsシステムの場合 :Data_Protector_home\docs
UNIXシステムの場合 :/opt/omni/doc/C
- Data ProtectorGUIの[ヘルプ]メニュー
- サポートWebサイト(<https://softwaresupport.softwaregrp.com/>)

ドキュメントマップ

以下の表は、各種情報がどのドキュメントに記載されているかを示したものです。セルが灰色に塗りつぶされているドキュメントを最初に参照してください。

	概要	ヘルプ	スタートアップ	インストール	インストーラ	トラブルシューティング	DR	CLI	PA	用統合ソフトウェアVSS	MSFT Oracle/SAP	IBM	Sybase/NDMP	仮想環境	ZDB管理者	ZDB IG	GRE ガイド	Exchange	SharePoint	VMware
管理タスク	X	X																		
バックアップ		X	X	X						X	X	X	X	X	X	X				
CLI								X												
コンセプト、テクニック		X		X						X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
ディザスタリカバリ				X			X													
インストール、アップグレード			X	X					X											
インスタントリカバリ			X	X											X	X				
ライセンス				X					X											
制限事項		X		X	X				X	X	X	X	X	X		X				
新機能		X							X											
計画戦略		X		X																
手順、タスク	X	X			X	X	X			X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
推奨事項				X					X											
要件				X					X	X	X	X	X	X						
復元	X	X	X	X						X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サポートされている構成				X																
トラブルシューティング	X			X	X					X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X

略称

以下の表は、ドキュメントマップに使用されている略称の説明です。ドキュメント項目のタイトルには、すべて先頭に"Data Protector"が付きます。

略称	ドキュメント	
Admin	管理者ガイド	このガイドはData Protectorの管理タスクを説明しています。
CLI	Command Line Interface Reference	このガイドでは、Data Protectorのコマンドラインインターフェイス、コマンドオプション、およびそれらの使用方法を説明し、基本コマンドラインの例を示します。
Concepts	コンセプトガイド	このガイドでは、Data Protectorのコンセプトとゼロダウンタイムバックアップ(ZDB)のコンセプトを解説するとともに、Data Protectorの動作原理を詳細に説明しています。これは、タスク指向のヘルプとともに使用するよう、作成されています。
DR	ディザスタリカバリガイド	このガイドでは、ディザスタリカバリのプランニング、準備、テスト、および実行の方法について説明します。
Getting Started	スタートアップガイド	このガイドでは、Data Protectorでの操作をすぐに開始するための情報を記載しています。インストールの前提条件を一覧し、基本的なバックアップ環境のインストールと構成の手順、およびバックアップと復元の実行手順を記載しています。また、詳細な情報を記載しているリソースについても一覧しています。
GRE Guide	Granular Recovery Extensionユーザーガイド - Microsoft SharePoint Server、ExchangeおよびVMware	このガイドでは、次の製品用のData Protector Granular Recovery Extensionの構成方法と使用方法について説明します。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft SharePoint Server • Exchange Server • VMware vSphere
ヘルプ	ヘルプ	
Install	インストールガイド	このガイドでは、実際の環境のオペレーティングシステムとアーキテクチャーに応じたData Protectorソフトウェアのインストール方法を説明します。また、Data Protectorのアップグレード方法と、環境に応じた適切なライセンスの取得方法も説明します。

略称	ドキュメント	
インテグレーションガイド	インテグレーションガイド	<p>このガイドでは、Data Protectorを次のアプリケーションと統合する方法を説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MSFT:Microsoft SQL Server、Microsoft SharePoint Server、およびMicrosoft Exchange Server。 • IBM:Informix Server、IBM DB2 UDB、およびLotus Notes/Domino Server。 • Oracle/SAP:Oracle Server、MySQL、SAP R3、SAP MaxDB、およびSAP HANA Appliance。 • Sybase/NDMP:SybaseおよびNetwork Data Management Protocol Server。 • 仮想環境:VMware vSphere、VMware vCloud Director、Microsoft Hyper-V、およびCitrix XenServerとの仮想環境統合
Integration VSS	Integration Guide for Microsoft Volume Shadow Copy Service	このガイドでは、Data ProtectorとMicrosoftボリュームシャドウコピーサービスとの統合について説明します。
PA	製品案内、ソフトウェアノートおよびリファレンス	このガイドでは、最新リリースの新機能について説明しています。また、インストール要件、必要なパッチ、制限事項、報告されている問題とその回避方法などの情報も記載しています。
トラブルシューティング	トラブルシューティングガイド	このガイドでは、Data Protectorの使用時に発生する可能性がある問題をトラブルシューティングする方法について説明します。
ZDB Admin	ZDB管理者ガイド	このガイドでは、Data ProtectorとP4000 SANソリューション、P6000 EVAディスクアレイファミリ、P9000 XPディスクアレイファミリ、3PAR StoreServ Storage、NetApp Storage、EMC VNXおよびEMC VMAX Storageファミリ、EMC Symmetrix Remote Data FacilityおよびEMC TimeFinderとの統合を構成し、使用する方法を説明します。このガイドは、バックアップ管理者やオペレーターを対象としています。ファイル

略称	ドキュメント	
		システムとディスクイメージのゼロダウンタイムバックアップ、インスタントリカバリ、および復元についても説明します。
ZDB IG	ZDBインテグレーションガイド	このガイドでは、Oracle Server、SAP R/3、Microsoft Exchange Server、およびMicrosoft SQL Serverの各データベース、およびVMwareの仮想環境についてゼロダウンタイムバックアップ、インスタントリカバリ、標準的な復元を実行するためのData Protectorの構成方法と使用方法について説明します。

統合

ソフトウェアアプリケーション統合

ソフトウェアアプリケーション	ガイド
IBM DB2 UDB	インテグレーションガイド
Informix Server	インテグレーションガイド
Lotus Notes/Domino Server	インテグレーションガイド
Microsoft Exchange Server	インテグレーションガイド、ZDB IG、GRE Guide
Microsoft Hyper-V	インテグレーションガイド
Microsoft SharePoint Server	インテグレーションガイド、ZDB IG、GRE Guide
Microsoft SQL Server	インテグレーションガイド、ZDB IG
Microsoftボリュームシャドウコピーサービス(VSS)	Integration VSS
Network Data Management Protocol (NDMP) Server	インテグレーションガイド
Oracle Server	インテグレーションガイド、ZDB IG
MySQL	インテグレーションガイド
SAP HANA Appliance	インテグレーションガイド

ソフトウェアアプリケーション	ガイド
SAP MaxDB	インテグレーションガイド
SAP R/3	インテグレーションガイド、ZDB IG
Sybase Server	インテグレーションガイド
VMware vCloud Director	インテグレーションガイド
VMware vSphere	インテグレーションガイド、ZDB IG、GRE Guide

ディスクアレイシステム統合

以下のディスクアレイシステムファミリとの統合に関する詳細については、該当するガイドを参照してください。

ディスクアレイファミリ	ガイド
EMC Symmetrix	すべてのZDB
P4000 SANソリューション	コンセプト、ZDB Admin、インテグレーションガイド
P6000 EVAディスクアレイファミリ	すべてのZDB、インテグレーションガイド
P9000 XPディスクアレイファミリ	すべてのZDB、インテグレーションガイド
3PAR StoreServ Storage	コンセプト、ZDB Admin、インテグレーションガイド
NetApp Storage	コンセプト、ZDB Admin、ZDB IG
EMC VNX Storageファミリ	コンセプト、ZDB Admin、ZDB IG
EMC VMAX Storageファミリ	コンセプト、ZDB Admin、ZDB IG

フィードバックを送信

このドキュメントに関するご意見は、[ドキュメンテーションチーム](#)まで電子メールでお送りください。お使いのシステムに電子メールクライアントが設定されている場合は、上のリンクをクリックすると、電子メールウィンドウが開き、件名行に次の情報が入力されます。

スタートアップガイド (Data Protector 10.00)に関するフィードバック

本文にご意見、ご感想を記入の上、**[送信]**をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docs.feedback@microfocus.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。